

企画展 「萌し—いのち満つるかたち」 「薔薇」

今年3月に96歳をむかえた墨象作家・篠田桃紅。その半世紀におよぶ抽象形態への思いは、今もなお衰えることがありません。作品には、抽象画を描きはじめたころと本質的には何も変わらない桃紅の墨への思いがあふれています。

作品「薔薇」は、書や文字の約束ごとの中から飛び出し、墨を使った新しいかたちを模索し始めた頃の作品です。和紙の上に、たぷりと水を含んだ薄墨がやわらかく拡がり、瑞々しく咲き匂う薔薇の花を思わせます。そこには、意味のあるかたち、つまり文字ではなく、微妙な風や仄かな匂いを含んだ、繊細で幽か



「薔薇」1956年 墨、和紙

企画展

「萌し—いのち満つるかたち」

- 会期… 4月3日(金)～6月28日(日)
- 入館料… 高校生以上 300円
中学生以下無料
- 休館日… 月曜日(休日を除く)、
休日の翌日
(土・日・休日を除く)
※5月4日～6日は開館
- 開館時間… 午前9時～午後4時30分
- 照会先… 篠田桃紅美術空間
☎23-7756

臨時休館日 作品入替作業のため、4月1・2日は休館します。

なもの重なりが、桃紅のころの中であたためていたものに触れ、ある萌しとなり水墨のかたちとなってたち現れていきます。桃紅の表現は、文字や色、かたちを超えて、今も昔もかわることのない自然や生命の根元につながっています。企画展「萌し—いのち満つるかたち」では、ものの生命が芽吹く春をテーマに、96歳をむかえ今なお精力的に作品を制作しつづける桃紅のころに萌した、生命感あふれる水墨のかたちと色の作品を紹介します。

ひとひと
女と男

ともに自分らしく生きよう vol. 58

男女共同参画社会

さんかくサポーターの豆知識 ⑫

照会先 さんかくサポーター事務局
(企画政策課内) ☎23-6831

「男女共同参画社会」づくり

平成11年に「せき男女共同参画まちづくりプラン」ができてから10年がたちますが、この間、あらゆる分野においてさまざまな事業が行われてきました。なかでも「子育てサポート事業」「病後児保育サービス」などの子育て支援事業は、この10年の間に検討され実現された事業です。

今年2月に行われた男女共同参画市民フォーラムの講演の中で講師の大日向雅美先生が「少子化対策は男女共同参画社会づくりにつながる」とおっしゃっていました。少子化対策は、子育て支援を充実させる必要があります。すなわち男女が協力し、互いにその能力を十分発揮できる社会づくりである「男女共

同参画社会づくり」に取り組むことになるのです。

このように考えると、関市は少しずつ前進していることがわかります。しかし、少子高齢化はこれからもどんどん進み、社会経済は大きな変革が起こっています。こうした状況を踏まえて昨年度「第2次せき男女共同参画まちづくりプラン」が策定されましたが、子育て支援に関する事業はもちろん、新たな課題であるDV対策、ワーク・ライフ・バランスの推進、女性のチャレンジ支援などが盛り込まれています。これからも、子ども大人も、若者も高齢者も、男性も女性も、すべての人が生きやすい社会、男女共同参画社会をみんなで作り上げていきたいものです。 <E>

このコーナーではさんかくサポーターが制度や用語をわかりやすく紹介します。